

## 令和5年度第1回高知市環境審議会 会議録(要旨)

- 1 日時 令和6年2月20日(火)10:00~11:30
- 2 場所 高知市本庁舎6階 611 大会議室
- 3 出席者 [委員]※敬称略  
川田勲(会長), 松本明(副会長), 安部順子, 岡林南洋, 北山めぐみ, 須内宗一,  
長尾達雄, 中田陽子, 西村光寿  
—以上, 委員9名出席で審議会成立  
(欠席:池田康友, 猪野文章, 田中佐和子, 堀澤栄)

### [事務局]

環境部:高岡部長, 川村副部長  
新エネルギー・環境政策課:田村課長, 伊勢谷課長補佐, 山中主幹, 岡野係長,  
原田係長, 岡主事, 森谷主事

## 4 議題

- (1) 第三次高知市環境基本計画の指標について
- (2) 令和6年度版高知市環境白書の構成について

## 5 報告

第2次高知市地球温暖化対策地域推進実行計画(区域施策編)の進捗状況について

## 6 配布資料

- (1) 会次第
- (2) 高知市環境審議会委員名簿
- (3) 【資料1】第三次高知市環境基本計画・概要版
- (4) 【資料2】第三次高知市環境基本計画・基本目標5の指標把握方法
- (5) 【資料3】高知市環境白書の作成方針
- (6) 【資料4】第2次高知市地球温暖化対策地域推進実行計画・区域施策編の概要
- (7) 【資料5】高知市における温室効果ガス排出量
- (8) 【資料6】区域施策編の進行管理指標の実績調査票
- (9) 【参考資料1】第三次高知市環境基本計画の代表的な指標, 個別指標一覧
- (10) 【参考資料2】令和5年度高知市市民意識調査・調査結果報告書
- (11) 【参考資料3】令和6年度版高知市環境白書・掲載データ項目案一覧
- (12) 【参考資料4】第2次高知市地球温暖化対策地域推進実行計画(区域施策編)用語の説明

※(1), (12)は当日配布

## 6 審議内容

### (1) 第三次高知市環境基本計画の指標について(資料1～2, 参考資料1～2)

#### 〈長尾委員〉

第三次計画の施策10「未来につなげる人づくり」に関して、少子高齢化で人口が減少する中、これからの時代を担う小学生や中学生の地域活動をどのようにしていくべきか、町内会連合会でも検討しているところであるが、高知市としては、環境分野における人づくりについてどのようなことを考えているのか教えていただきたい。

1つ提案したいのが、「おはよう ちょこっと ボランティア」。これは、月1回の資源・不燃物の収集の日に、小学生・中学生・高校生に、登校前のちょこっとの時間、ごみステーションの点検を手伝ってもらうというもの。

このような事例を町内会で実現したいと考えているが、環境分野における人材育成について、市としてどのように考えているかもう少し説明をお願いしたい。

#### 〈事務局〉

環境分野における人づくりでは、まず環境について意識してもらうことが入口だと考えている。施策10の個別指標としては、「環境学習の参加者数」を用いて整理することとしており、直近値では年間で約1,400人の市民の方に環境学習に参加していただいている。引き続き、環境分野への関心を日常的にも高めてもらえるような啓発を進めていきたい。

また、子どもたちへの環境教育の充実については、第三次計画の取組の1つとしており、今後第三次計画を進めていく中で、具体的な行動変容に繋がる啓発活動を検討していきたい。

#### 〈長尾委員〉

子どもたちへの環境教育を進めていく中で、学校教育との連携が必要になるが、学校の先生は忙しく、地域活動に協力してくれる人は少ない。教育委員会と協力して、子どもたちへの環境教育を実施していただきたい。

#### 〈事務局〉

子どもたちへの環境教育の1つとして、環境部では、中学生を対象に「環境啓発ポスター」の募集を実施している。

教育委員会との連携においては、難しい部分もあり、それぞれの関わり方や周知啓発の仕方、実施の主体性等、細かな調整が必要だと思うが、いただいたご意見を踏まえ、中高生やその下の世代の方にもアプローチできる方法を検討していきたい。

#### 〈北山委員〉

基本目標5「環境保全・創造に取り組む人づくり・地域づくり」の代表的な指標である、「環境に配慮した行動を自ら実施している人の割合」として、市民意識調査を用いることは良いと思うが、調査で出てきた結果をどのように考察するのか、何を基準に結果を読み解くのかといった点に関して、どのように考えているのか。

市民意識調査は無作為抽出で回答を求めていることから、2年間の調査を比較したときに、結果の差を誤差と捉えるのか、有意な結果だと捉えるのか、読み取り方は難しいように思う。

〈事務局〉

この市民意識調査は、市民3,000人を無作為抽出の上、回答率は約50%で推移をしており、市民の皆さんの全般的な傾向を把握するという意味では有効であると捉えている。調査結果の分析については、環境分野だけにかかわらず、様々な分野について、共通的な分析の手法が用いられているため、それを参考にするとともに、数値の変化は、できるだけ長い間隔でみていきたい。

〈中田委員〉

まず、第三次計画の指標について何を討議していただきたいのか。

【参考資料1】の中身の精査ということであれば、少子高齢化や人口減少に伴い、目標値の見直しは必要になってくる。目標値を定量で設定している場合、数値の変化が指標の中身によるものなのか、人口減少によるものなのか、検討は必要。

〈事務局〉

今回は、第三次計画の基本目標5の代表的な指標に設定されている、「環境に配慮した行動を自ら実施している人の割合」の直近値が把握できていないことから、この指標の把握方法について、【資料2】の方で整理させていただいている。

人口減少については、【参考資料1】の指標全般に言えることであり、要因を分けることは難しいかもしれないが、傾向を捉えられるように分析をしていきたい。

〈松本副会長〉

私なりに、この議題に対する解釈も含めてお話すると、【参考資料1】のような形で整理をしていくと、基本目標1~4に関しては、しっかりとした定量的な指標があり、それを裏付ける関連計画もある。しかしながら、目標1~4を支える基盤である基本目標5を総合的に把握する指標がこれまでは明確に位置づけられておらず、それを裏付ける計画も定められていないことから、まずは代表的な指標として、どのような指標が把握可能で、適切であるかということが議題となっており、これまでの仕組みが使えて、かつ代表性もある市民意識調査を用いてはどうかというご提案かと思う。

単に、アンケートで「環境に配慮した行動をしていますか。」と聞いただけでは、「やっている」との回答で終わってしまうため、その回答がしっかり担保されているのかを検討するために、【資料2】の(2)の方法で、目標1~4について補完的に見ていくことは合理的であり、問題ないように思う。

一方で、代表的な指標の整理は良いとしても、今後、年度ごとに数値を見ていく中で、どのような要因が効いているのかということ把握する体系が十分にできていないことから、

その指標を支えるものを考えていく必要がある。目標1～4の各指標は、それぞれの計画の中で定められており、指標の把握や見直しの体系が出来上がっており、目標5もそのような体系の検討を進めていただきたい。

〈事務局〉

目標5の代表的な指標の下に、施策10と11をそれぞれ個別指標として設定し、整理しているが、その中身については十分でない部分もあるため、今後事務局で検討していきたい。

〈川田会長〉

指標の未把握部分については、市民意識調査の案を利用していくことになると思うが、【資料2】の(2)については、第三次計画の指標一覧に追加するということか。

〈事務局〉

指標一覧に追加するというわけではなく、(1)を補完するデータとして位置づけ、それぞれの環境の分野の視点から見たときに、どのような実績が積めているかという視点で把握をしたいと考えている。

(2) 令和6年度版高知市環境白書の構成について(資料3)

〈川田会長〉

白書は、もう作っているのか。

〈事務局〉

令和5年度版については、現在作成中である。議題のとおり、令和6年度版については、作成にあたっての構成を検討しているところである。

〈川田会長〉

第三次計画に基づき、提案していただいている構成で作成を進めていただきたい。

(3) 令和6年度版高知市環境白書の構成について(資料4～6, 参考資料4)

〈長尾委員〉

実際に、高知市で、どのような地球温暖化による影響が起きているのかというのは把握しているのか。具体的な部分を示していただきたい。

〈事務局〉

地球温暖化の影響としては、豪雨の増加や台風の勢いが以前よりも増していることなどが挙げられている。引き続き、啓発の意味も含めて、把握に努めたい。

〈長尾委員〉

第三次計画のような冊子は、市民の方は持っていないため、「あかるいまち」等での啓発をお願いしたい。

〈中田委員〉

長尾委員の話に引き続いて、広報の仕方について、いかに環境分野に興味を持って知っ

ていただくか、効率的で効果のある広報について、検討を重ねてこれからも頑張っていたきたい。

〈安部委員〉

長尾委員の環境学習に関するご意見をお聞きし、高知県地球温暖化防止推進員の活動をより積極的に実施していきたいと思う。

〈川田会長〉

新型コロナウイルス感染症は、第5類となり、収まったように見えるが、経済社会への影響が表面化してきている。

高知県の産業が衰退したことで CO<sup>2</sup> の排出量が減り、環境の状況が良くなるというのは、社会としてのあるべき姿ではないと思う。産業と環境は密接に結びついており、その関係性を捉えていくことは必要だろう。

〈中田委員〉

市民意識調査を見ていると、女性の方が環境分野への関心があることから、スーパーや量販店の協力も得ながら啓発を進めていけたらよいのではないかなと思う。

〈北山委員〉

市民意識調査で指標を把握していく際に、私たちは1日のほとんどの時間を会社や学校等で過ごしていることから、企業や学校といった組織体での把握もできると良いのではないかなと思う。

〈松本副会長〉

議題1の補足として、例えば令和4年度版の白書の各論7「参加・協働・連携の推進」に記載されている項目の必要性について検討し、指標の把握方法やその体系を構築していくと良いのではないかなと思う。

また、気候変動の適応策の話があったが、国の方針と連携して、対応していただきたい。

最後に、市民意識調査について、最近アンケート形式ではなくグループインタビューのような形で実施しているところもある。質的に深いデータを取ることができる方法を考えられると、分析もより深くなるかなと思う。

(終了)